

科目分類	いのち・人間の教育			開講学科	全学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18004	1	後期	選択	1	15
授業科目名 (英文)	生命倫理学 (Bioethics)				
担当教員名	山本 伸裕				
授業の概要及び到達目標					
<p>ヒトは肉体を有する存在である。その限りでは、ヒトの身体はモノであると言える。しかし、ヒトの身体は、単なるモノではないであろう。ヒトの“いのち”のケアにあたるのが仕事の医療現場では、“いのち”ある“人間”という視点から「倫理」の問題に向き合うことが強く求められる。</p> <p>この授業では、パターンリズム、自己決定権、パーソン論、QOLとSOL等、生命倫理学の教科書等で扱われる基礎的概念をひとつお押しさえたうえで、現実に起こった具体的事例を通じてこれらの倫理問題にアプローチしていく。また、日本の文化に根差した倫理のあり方についても、随時、触れていきたい。</p> <p>毎回、授業の冒頭で、講義のテーマに関わる15分程度の映像資料を視聴する。</p>					
準備学習等					
<p>生命倫理をめぐる著書は数多く出版されている。また新聞やネットなどには、毎日のように「生命倫理」に関するニュースが掲載されている。また、映画やドラマ、小説などにも、生命倫理をテーマとした作品は少なくない。</p> <p>生命倫理をめぐる諸問題には、正しい答え、究極の答えなど存在しない。近い将来、医療の現場に携わる人間として、そうした答えのない問題につねに関心をもって目配せするよう心がけてほしい。</p> <p>下記の「授業計画」を参照し、教科書を予習や復習に活用すると同時に、毎回のテーマに沿った記事などを、ネットや新聞で調べてくること。また、指定した教科書以外にも、生命倫理を扱った本は数多く出版されているので、興味のあるテーマを各自で深めておくこと。</p>					
成績評価の方法	試験（持ち込み不可）80% 平常点 20%				
テキスト	小林亜津子『看護のための生命倫理』[改訂版]（ナカニシヤ出版）				
参考図書	小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理：「いのち」は誰が決めるのか』 （ちくまプリマー新書） 香川知晶『命は誰のものか』（ディスカバリー携書）				
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連については、別途明示している各学科の履修系統図をご確認ください。 ・各回の授業の前後に、生命倫理にテーマに関わる記事などを、新聞やネットで調べて来ててください。 ・質問等は、基本的に授業終了後に教室で受付けます。 				

授 業 計 画

第1回:倫理と応用倫理

- ・倫理と哲学はどう違うのか?・医療という技術は他の技術と何が違うのか?
- ・倫理の問題に答えはあるのか?

第2回:パターナリズムと自己決定権

- ・医療者の倫理とは?・私たちは自分のことを自分で決められるのか?
- ・インフォームドコンセントとは

第3回:遺伝子治療

- ・ヒトゲノムの解読は医療をどう変えるか?・人はいつから人になるか?(パーソン論)

第4回:出生前診断と優生思想

- ・命の選別は許されるか?・人工妊娠中絶は医用行為か?
- ・優れた生とは何か?

第5回:不妊治療と代理母

- ・体外受精、代理母は許されるか?・産む人間の権利か、産まれる人間の権利か?
- ・クローン人間の作成が許されないのはなぜか?

第6回:生殖に関する倫理

- ・回復不能な子どもの治療を停止してよいか?
- ・安楽死(尊厳死)の是非について

第7回:終末期医療と臓器移植

- ・脳死は人の死か?・臓器はモノなのか?
- ・再生医療の現在

第8回:宗教上の治療拒否

- ・信仰の自由か、救命か?・子どもの治療を親が決めていいのか?(代理同意)